

令和5年度 菊池川流域治水協議会（第4回協議会） 概要

1. 開会（司会 国土交通省 菊池川河川事務所 大野技術副所長）
2. 挨拶（国土交通省 菊池川河川事務所 原田事務所長）
3. 議事（国土交通省 菊池川河川事務所 流域治水課 大山課長）
 - 1) 協議会規約・構成
 - ・菊池川流域治水協議会 規約、構成について
規約（改正案）について確認、承認。
 - 2) 令和4年度の取り組み内容について
 - ・最終とりまとめを確認。
 - ・新規の取り組み内容の紹介。
（菊池川河川事務所・和水町・南関町・山鹿市・玉名市）
 - 3) 菊池川流域治水「推進モデル地区」について
 - ・第1回意見交換会の開催を報告。
4. その他情報提供
 - ・九州地方整備局流域治水推進室の設置の情報提供。
5. 今後の予定
 - ・協議会スケジュールについて
次回は、菊池川水系流域治水対策プロジェクトの実施状況のフォローアップを
来年5月に実施予定。

(ご発言内容)

2) 令和4年度の取り組み内容について

【和水町 和水町長】

・菊池川左岸の内藤橋付近のため池整備事業について

本ため池は、農業利水で使用されていたが、現在は使用されておらず、汚泥の堆積、護岸の劣化により、洪水時には近隣住宅に被害を及ぼしている状況。

対策としては、今まで貯留していたものを無くし、洪水時は大型水路、貯留施設に一定時、貯める対策工事を今年より開始し、令和6年度に完了する予定。

・河道掘削事業について

山間に位置する和水町では、雨天時の山林などからの土砂流出により大小河川に堆積する土砂が多くなっており、洪水時は宅地・農地の浸水や被害の復旧額も年々増加傾向にある。

減災の観点から、町河川の計画的な河道掘削により、洪水時の排水断面の確保を行っている状況。この事業では、令和3年度から令和6年までの計画で町河川の河道掘削を行っている。

【山鹿市 農村整備課】

・ため池ハザードマップの作成について

近年、局地的な大雨や大規模な地震の発生などにより、ため池の被害が各地で発生している。令和元年7月1日に農業用ため池の管理及び保全に関する法律が施行され、それに基づいて策定。作成にあたっては、ため池が決壊した際の被害予測や浸水範囲、避難場所等に係る情報を住民に分かりやすく提供し、被害を最小限にとどめることを目的とした。また、ワークショップの開催により、地元の区長、水利組合長等、地元関係者の意見を集約し作成している。

現在、山鹿市のため池は233箇所あるが、うち143箇所が農業用防災重点ため池に指定されており、県内で一番のため池の所有地域になっている。

ため池ハザードマップの作成状況としては、令和4年度までに95カ所を作成し、今年度廃止見込みの2箇所を除く46カ所のため池ハザードマップの作成をもって完了予定。

【南関町 副町長】

・河道掘削事業について

南関町では、菊池川の二次支川である大場川において、土砂堆積により水位上昇や護岸への悪影響の懸念があり、地元からも対応を望まれていた。これについて、下流への悪影響も懸念されるところであり、菊池川水系流域治水プロジェクトの取り組みの一環として河道掘削を行った。

本掘削により流下能力の向上も図られ、今後、東側の山下川も河道掘削を実施する予定。

【玉名市 都市整備課】

・3D 都市モデルの活用について

立地適正化計画を令和4年3月31日に策定し、6月1日に公表している。

本計画における防災指針のソフト対策として、災害リスクの可視化事業、避難シミュレーション VR 事業を行った。

地域における避難誘導の高度化及び地域の防災意識の向上を目標とし、課題として、災害リスクを把握して事前に地域全体で災害に備えるにあたり、色んな方に見て分かるような情報にする必要があり、今回の事業を実施した。

災害リスクの可視化事業については、時系列で3次元化可視化することにより、想定破堤箇所からの浸水氾濫の進行状況を時刻歴で表示し、災害リスクを分かりやすく可視化している。

避難シミュレーション VR 事業についてはアプリを作成し、市民の防災意識の醸成及び、マイタイムライン支援ツールとして、活用を図っている。

VR 体験と避難シミュレーションを地域の方に体験いただき、大変好評だった。

4月27日から貸出要領を作成し、一般の方に貸し出しを行っており、これからも活用を図っていく。